

有り得ない解釈での製作はお控えください

記憶の残色

本屋にて

台本師   ジョー

○「五感と記憶の関係性、へ〜面白そうね、これにしようかな」

スマホにメッセージが来る(ここからはスマホのやり取り)

●「お疲れ様、週末のデートなんだけど、どこか行きたい所とかある？」

○「特には無いかな」

●「じゃあ水族館でも行こうか」

○「賛成！よろしくお願いします。」

●「十時にいつもの場所で待ち合わせね」

やり取り終わり

○「水族館か、久しぶりだし楽しみだな」

シーンチェンジ

待ち合わせ場所

○「人間の五感で最も記憶に残るのは視覚が∞割か、なるほどね〜」

●「わっ！」

○「うわぁ！びっくりするでしょ！」

●「あはは、また難しい本読んでるの？」

○「別に何読んでたっていいでしょ」

●「まあ、それは○○の自由だからね、へ〜、記憶と五感ね」

○「なによ、てかそれにしても毎回派手な色ね」

●「俺は赤が好きなんだよ！それに派手な色の方が記憶に残るだろ？」

有り得ない解釈での製作はお控えください

○「確かにこの本にも鮮やかな色は記憶にも残るって書いてあるけど、私達もいい歳なんだし、そろそろ落ち着いたら？」

●「あー、何も聞こえない！」

○「何子供みたいなことしてるの」

●「俺は自分が居なくなっただとしても人の記憶に残りたい訳！発言も見た目もね！そこに歳は関係ない！」

○「そういう意味ではしっかり残ってるわよ。似合ってるし(小声)」

●「ん？なんて？」

○「なんでもないわよ！ほら、早く行こう」

●「なんだよ、気になるじゃん！」

○「いいから！」

●「ちえっ」

シーンチェンジ

水族館

○「うわー、綺麗ね」

●「ああ、美味しそうだ」

○「なによそれ、ムード台無し」

●「マグロにサバ、カツオに平目、どれも美味しそうだろ？」

○「そんな事言われたら食べたくなってきちゃったじゃない」

●「ほら、結局俺と同じじゃん」

○「うるさいわよ」

●「あはは、あつ、クラゲだ」

有り得ない解釈での製作はお控えください

- 「ホントだ、可愛い」
 - 「そうだね、クラゲっていつもゆらゆらして気持ち良さそうで羨ましいよな」
 - 「そうね、あのくらいゆらゆら生きられたら良いなって思う時もあるわ」
 - 「いつも難しい本読んで難しそうな顔してるもんな」
 - 「●●が何も考えてないだけでしょ」
 - 「俺だって考え事くらいあるよ」
 - 「例えば？」
 - 「例えば、今日この後、なんの魚料理食べようかなとか」
 - 「あはは、●●らしい」
 - 「そんな笑うか？」
 - 「そういう所、好きよ」
 - 「ありがとう、そろそろ出ようか」
 - 「ええ」
- 水族館の外に出る
- 「すっかり夕方になっちゃったな」
 - 「綺麗な夕日」
 - 「ああ、真っ赤だ」
 - 「え？オレンジだよ」
 - 「え？赤だよ！歌とかでも真っ赤な太陽って言うじゃん」
 - 「茜色とも言うでしょ」
 - 「確かに…」
 - 「ほらね」

有り得ない解釈での製作はお控えください

- 「でも、俺って赤が好きだし太陽みたいだし赤でもよくない？」
- 「あはは、何言ってるの？まったく」
- 「あはは、俺は○○の笑ってる顔見てるのが何よりも好きなんだ、だからずっとその笑顔を照らす太陽みたいで在りたい」
- 「ありがとう、●●のおかげでいつも私は救われてるわ」
- 「まあ、それが俺の役目だからね」
- 「そろそろ行きましょ！私もうお腹ぺこぺこ」
- 「あっ、待って」
- 「ん？」
- 「その前に○○に伝えなきゃいけないことがあって」
- 「改まっちゃって、どうしたの？」
- 「なあ、○○俺達そろそろ…」
- シーンチェンジ
- 「懐かしいわね、夕日を見ながらそんな事言われたっけ…」
- 「赤が好きなんだよ！それに派手な色の方が記憶に残るだろ？」
- 「視覚は記憶の∞割を占めるか…確かにそうだわ…」
- 「俺は自分が居なくなったとしても人の記憶には残りたい訳！発言も見た目もね」
- 「しっかりと残ってて、忘れられないわよ…」
- 「俺は○○の笑ってる顔見てるのが何よりも好きなんだ、だからずっとその笑顔を照らす太陽みたいで在りたい」
- 「一方的な記憶だけ残して勝手に居なくなってるんじゃないわよ…バカ…」